

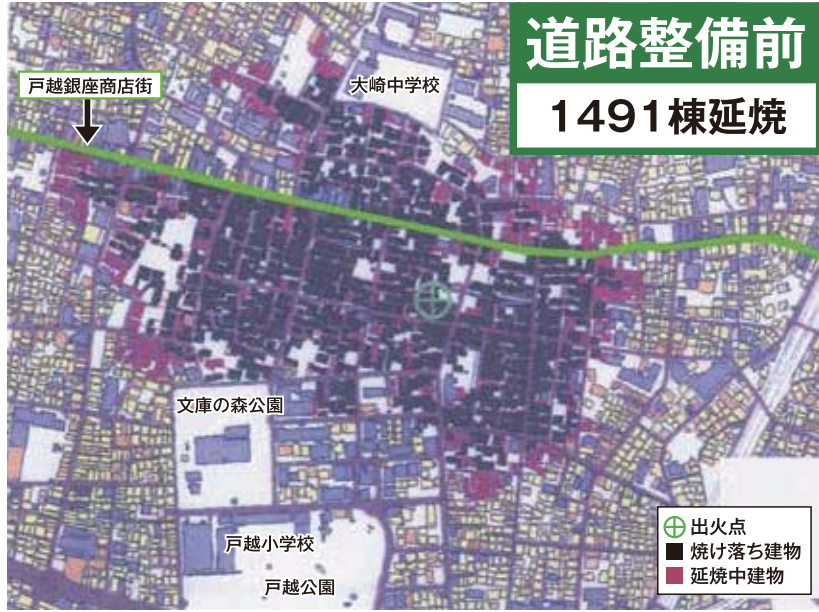
道路ができて500棟以上延焼が22ヶ所

都のシミュレーション

都市計画道路
補助29号線

防災の根拠 崩れる!

都の延焼シミュレーション 豊町1丁目の場合(出火点番号R009)



道路ができて延焼

住宅街に幅20mの新たな道路をつくる補助29号線計画。都と区が住民説明会で「震災時延焼をくい止める命の道」とする唯一の根拠が都のシミュレーション。都は公表を渋っていましたが、党区議団と白石たみお都議との連携で10月ついに公開されました。

道路計画は白紙に

シミュレーションの想定は現実離れしたもの。火災なのに火の粉は飛ばない、道路上には車は1台もないため車両火災の想定もありません。風向きは、東風と西風のみ。29号線は南北にのびる道路。冬の北風が吹けば、さらに燃え広がることになります。

都はシミュレーションで出火点を70ヶ所設定。そのうち500棟以上延焼が22ヶ所もありました。豊町1丁目の場合、道路整備前1491棟延焼が完成後も1218棟、82%が延焼(左図参照)。

こんなに多くの住宅が燃えてしまうのに防災対策とは言えません。

29号線だけで822億円もの税金を投入。町会や商店街を分断し、住宅550棟を立ち退かせコミュニティを壊す巨大道路は防災に役立たず、むしろ危険を拡大することになります。

日本共産党石田ちひろ区議が決算総括質問で、東京都公表の延焼シミュレーションをパネルで示し、「補助29号線完成後も燃え広がる。これで防災対策か」と追及。都と区の「防災道路」の根拠がごとく崩れました。

想定には、火の粉も車も北風もない

補助29号線道路計画とは

山手通りの大崎警察から戸越銀座、戸越公園駅前、西大井に至る3.5km、幅20mの都市計画道路。2020年までに完成させる特定整備路線として都が指定。道路上の住宅550棟、幼稚園などを立ち退かせ、14町会、10商店街を分断。税金を822億円投入(共産党試算)する計画。各地で反対運動が広がっています。

対案

木造住宅耐震化や出火防止・消火対策の充実を

日本共産党の主な提案

- ◆木造住宅の耐震化
 - 耐震診断を無料に
 - 耐震化助成を150万円から300万円に増額
 - 区内全ての旧耐震木造住宅1万3000棟の耐震化にかかる費用は433億円。補助29号線への税金の約半分で可能
- ◆出火防止
 - 通電火災を防ぐ感震ブレーカーの設置助成の創設

- ◆消火対策の強化
 - 街頭消火器やスタンドパイプの増配備
 - 上水道の耐震化100%を(断水するとスタンドパイプは使えません)
- ◆障害者や高齢者など災害時要援護者支援の拡大

首都直下地震対策急げ



日本共産党

原発ゼロ、汚染水は海に流すな



11・10 原発いらない品川パレード

4月からの消費税増税は中止を



共産党区議団と白石たみお都議(大井町駅前)